

ゴージャスお宝鑑定家〜「づ」
ん、ゴージャス！」37

登場人物

● 剛田（ごうだ）…剛田質店の店主。ゴージャスな品物しか鑑定しない。優雅で品のある言動だが、クセが強い」と思われている。石言葉に詳しく熱弁を振ることもしばしば。口癖は「ゴージャス！」。

● 白金（しろがね）…剛田質店の見習い鑑定士。常識的な性格で剛田のテンションに振り回される。お宝を大切に思う神経質な性格。

● 客…剛田質店を訪れる人物。アレキサンドライト製のハンガーを持ち込む。背景には複雑な事情がある。

シーン1：剛田質店の朝

場所

剛田質店の店内。豪華絢爛なインテリアが広がる。シャンデリアが輝き、壁には金箔が施されている。

〔カメラ：店内全景を映す。豪華なインテリアが目に入る〕

剛田：（優雅に紅茶を飲みながら）

白金よ、今日もゴージャスたる一日が始まるぞ。『ゴージャスたるもの優雅たれ』、これ

白金：（忙しそうに帳簿を確認しながら）

剛田さん、朝からテンション高いですね。昨日の買取品、まだ整理が終わってないんですけ

剛田：（手を優雅に振りながら）

整理など、後回しで良いのだよ。大事なのは、今日という日を如何にゴージャスに彩るか

白金：（ため息をつきながら）

また始まった…。剛田さん、ゴージャスって言葉、便利すぎません

剛田：（微笑みながら）

便利などではない。これは生き様だ、白金よ。」

（ドアのベルが鳴る音）

客：（少し緊張した様子で）

すみません。こちらで鑑定をお願いしたいの

剛田…(すつと立ち上がり、優雅に歩み寄る)

「おっと、お客様！ 剛田質店へようこそ。さあ、どんなゴージャスなお宝をお持ちになったのかな！」

白金…(小声で)やれやれ」

シーン2：アレキサンドライト製のハンガ

ー登場

場所

剛田質店のカウンター前

(客が大事そうに布で包まれた物を取り出す)

客…(慎重に)

「これを鑑定していただきたいんです。」

剛田…(布を取り外し中身を露わに)

白金…(驚きながら)

「アレキサンドライト…って、あの宝石の？でも、ハンガーに

する意味って…？」

剛田…(白金を一瞥し、ため息をつく)

白金よ、君はまだまだだね。実用性が全てじゃない

さ

白金…(困惑しながら)

「いやハンガーだから使えないとダメでしょ!？」

剛田…(優雅に手を挙げて制止)

実用性など、ゴージャスの前では些事に過ぎぬ!」

シーン 3: 客の背景

場所

剛田質店のカウンター前

客…(少し涙ぐみながら)

実は、このハンガーは亡き祖父が遺したものです。祖

父は職人で、生前 異しいものは、日常の中にこそあるべ

きだ』と言っていました。」

剛田…(目を輝かせて)

「なんと素晴らしいお言葉! お祖父様は真のゴージャスを
理解されてるようだ!」

白金…(メモを取りながら)

でも、どうして売ろうと思ったんですか？」

客…(困った表情で)

実は、祖父の工房を維持するお金が足りなくて…。このハンガーを手放すしかないんです。」

剛田…(感動しながら)

そういうことなら、尚更この品の価値を最大限に評価せねばならぬ！これぞ、ゴージャスの試練だな！」

白金「ゴージャスの試練ってなんですか？！」

シーン4：剛田の石言葉熱弁

場所

剛田質店の鑑定室。豪華な調度品に囲まれた中で、剛田が鑑定を進める。

剛田…(ハンガーをルーペで覗き込む)

アレキサンドライト。昼と夜で色を変えるこの石は、愛化』と『適応』の象徴だ。そして、その輝きは『希望』をもたらすと言われている。」

白金（興味深そうに感嘆する）

剛田（さらに熱弁しながら手を広げる）

そうだと！この石が持つ力は、ただの装飾品に留まらない。アレキサンドライトは、暗闇の中で光を見出す石。持つ者に希望と勇気を与え、未来を切り開く力を宿しているのだ！」

客（感動して涙ぐむ）

白金（メモを取りながら）

確かに、ただのハンガーではなさそうですね…。でも、剛田さん、これをハンガーにする意味って…？」

剛田（白金を鋭く見つめ）

白金よ、君はまだまだだ。このハンガーは、日常の中に輝きを取り戻すための象徴なのだ。実用性を超えた美の極致、それがゴージャスだ！」

白金（苦笑いしながら）

なるほど…。剛田さんの辞書には『普通』って言葉は載っていないですね。」

シーン5：実際に使ってみる

場所

剛田質店の裏庭。天気は快晴。剛田が自らハンガーを試してみようとする。



(剛田が自分の寝巻をハンガーにかけて干している)

剛田：(優雅に干しながら)

「ふむ、日常こそゴージャスであるべきだ。これを使えば、どんな洗濯物も輝きを纏うに違いない。」

白金…(呆れ顔で)

剛田さん、自分の寝巻を干すって…。これ、鑑定の一環
なんですか？」

剛田…(陽光を浴びた寝巻を見て驚き)

「おおおおお！見よ、この輝き！まるで宝石が纏う光のよう
に、私の寝巻が輝いているではないか！これぞアレキサンド
ライトの真骨頂！うん、ゴージャス

白金…(目を細めながら)

「いや、確かに光ってますけど…。これ、近所の人に見られ
たらどう思われるんですかね？」

剛田…(堂々と)

「何を言う、白金よ。この輝きこそ、日常にゴージャスを取
り戻す第一歩だ！」

シーンの金額発表

場所

剛田質店のカウンター前。客が緊張しながら結果を待つ
ている。

剛田…(劇的に立ち上がり、声を張り上げる)

「このハンガー、我が剛田質店にふさわしい逸品だ！買取

価格は…800万円とさせていたどころ！」

白金…(驚愕して口を開ける)

800万！？剛田さん、本気ですか！？ハンガーにそんな

価値が…？」

剛田…(白金に優雅に向き直り、微笑む)

白金よ、ゴージャスとは、値段では測れないものなのだ。

このハンガーには、価値以上の魂が宿っている。だからこ

そ、この価格なのだよ。」

客…(涙を流しながら深々と頭を下げる)

「ありがとうございます…！これで祖父の工房を守ることが

できます。剛田さん

剛田…(満足げに頷く)

シーリング・フロア

場所

翌朝の剛田質店。剛田が眩しい寝巻姿で現れる。

合計時間

•	シーン 1 : 7分
•	シーン 2 : 10分
•	シーン 3 : 12分
•	シーン 4 : 15分
•	シーン 5 : 10分
•	シーン 6 : 12分
•	シーン 7 : 10分

総尺：約76分（演出や間を含めれば80分超えを想定）